

コールセンターからの小さなよみもの



2021年3月31日

Vol
146

資産形成のはじめの一步。 まとまった資金がないと、スタートできないってホント？

各種報道によると、毎月定額を投資する少額投資非課税制度(つみたてNISA)の利用者が急増しているようです。なかでも、20～30歳代の口座開設が増えていることから、若年層を中心に資産形成の意欲が高まっていることがうかがえます。コールセンターにも、資産形成の始め方に関するご質問が寄せられることが増えています。

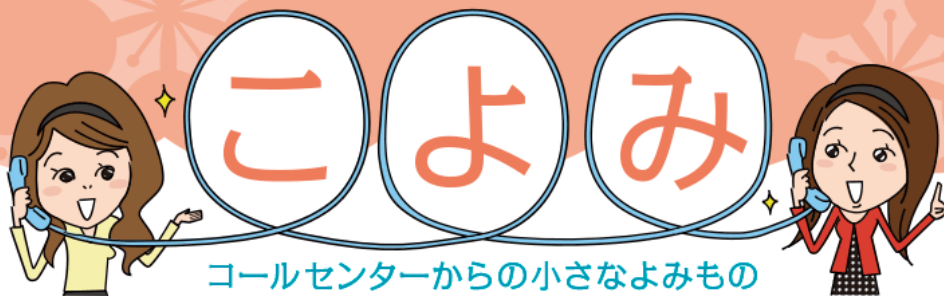
以前の連載で、資産形成は、「いくらにしたいか」という目標額をたてることから始めましょう、とお話をしました。[\(vol.142 資産形成のはじめの一步。まずは「いくらにしたい!」という目標をたてましょう。 ※こちらをクリックするとお読みいただけます\)](#)

「いくらにしたいか」という目標額を明確にできたら、次に考えるのは「いくら投資をするか」という元本です。

そこで今回は、資産形成における元本についてあらためて整理したいと思います。



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの



「まとまった資金が必要」、これって、ホント？

「資産形成をスタートするには、まとまった資金が必要」と考える方は少なくないようです。なかには、資産形成を始めるために、頑張って預貯金をしているという方もいらっしゃるようです。果たして、正しい考え・行動なのでしょうか。

まずは下表(図-1)をご覧ください。

(図-1)元本・利回り別の運用シミュレーション(20年間の場合)

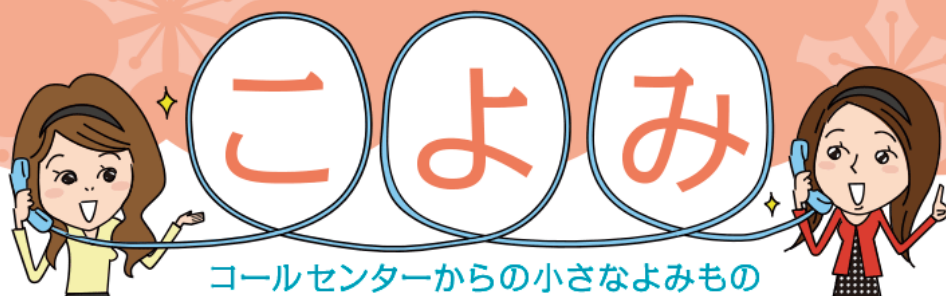
	0.01%	3%	5%	7%	10%
100万円	100万円	181万円	265万円	387万円	673万円
300万円	301万円	542万円	796万円	1,161万円	2,018万円
500万円	501万円	903万円	1,327万円	1,935万円	3,364万円
700万円	701万円	1,264万円	1,857万円	2,709万円	4,709万円
1,000万円	1,002万円	1,806万円	2,653万円	3,870万円	6,727万円

●計算は1カ月複利計算で、税金・手数料等は考慮していません。●資産運用に関する考え方を示すことを目的としたものであり、特定の商品の利回り等を保証・示唆するものではありません。

元本・利回り別に運用成果をシミュレートしたものです。赤くハイライトした部分に注目すると、5,000万円という目標を達成するためには、10%という高い利回りがあつたとして、700万円以上の元本が必要になることが分かります。

ただし、「やっぱり、まとまった資金が必要なのか」と結論付けてしまうのは尚早です。なぜなら、いくらにしたいかという目標を達成するためのカギは、一括投資だけが握っているというわけではないからです。





元本は2通りで考えましょう。

下表(図-2)は、20年間で5,000万円という目標額を達成するための、“皮算用”です。赤でハイライトしているのは、「500万円の一括投資×7%の利回り×20年」の運用成果です。大きな成果ではありますが、残念ながら目標額には届きません。

注目してほしいのは、青でハイライトした5.8万円という数字です。これは目標額への不足分(約3,065万円)のために必要となる毎月の積立額を逆算したもの。つまり、500万円の一括投資に加えて、同じ条件で毎月5.8万円の積立投資を続けると、目標額に届くというわけです。元本というと、つい一括投資とだけ結び付けて考えてしまいがちですが、このように一括投資と積立投資の2通りで考えるべきなのです。

さらに、緑のハイライトを見ると、仮に一括投資額が0であっても「6.5万円の積立投資×10%の利回り×20年」で、目標額に届くことが分かります。このように、積立投資は、とても大きなチカラを秘めた元本といえます。

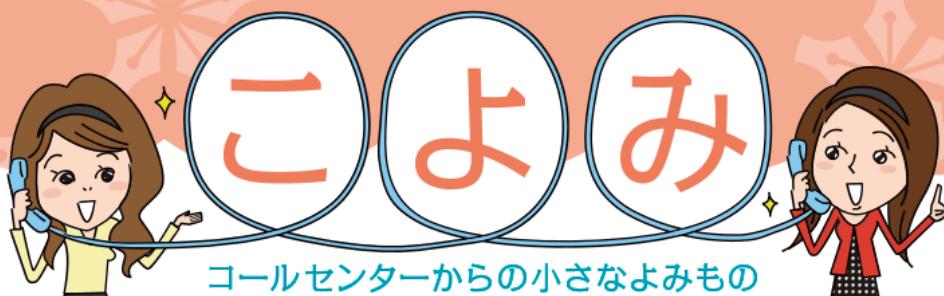
(図-2) 目標額5,000万円を達成するための“皮算用”(20年間の場合)



	0.01%		3%		5%		7%		10%	
	一括投資 の成果	必要 積立額	一括投資 の成果	必要 積立額	一括投資 の成果	必要 積立額	一括投資 の成果	必要 積立額	一括投資 の成果	必要 積立額
0万円	0万円	20.8万円	0万円	15.2万円	0万円	12.1万円	0万円	9.5万円	0万円	6.5万円
100万円	100万円	20.4万円	181万円	14.6万円	265万円	11.5万円	387万円	8.8万円	673万円	5.7万円
300万円	301万円	19.6万円	542万円	13.5万円	796万円	10.2万円	1,161万円	7.3万円	2,018万円	3.9万円
500万円	501万円	18.7万円	903万円	12.4万円	1,327万円	8.9万円	1,935万円	5.8万円	3,364万円	2.1万円
700万円	701万円	17.9万円	1,264万円	11.4万円	1,857万円	7.6万円	2,709万円	4.4万円	4,709万円	0.4万円
1,000万円	1,002万円	16.6万円	1,806万円	9.7万円	2,653万円	5.7万円	3,870万円	2.2万円	6,727万円	-

● 計算は1ヵ月複利計算で、税金・手数料等は考慮していません。● 資産運用に関する考え方を示すことを目的としたものであり、特定の商品の利回り等を保証・示唆するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



あくまでも“皮算用”であることを理解しなければいけません…

前ページの表は、あくまでも固定利回りでのシミュレーションであることには注意が必要です。価格が上にも下にも変動する運用では、直線的にリターンが積み上がっていくことはあり得ませんから、表のとおり元本が増えていくことは絶対にありません。ですから、あくまでも“皮算用”として参考程度に理解しておくのが正解。ただ、「500万円の一括投資と5.8万円の積立投資で5,000万円が見えるのか！決してラクではないけれど、頑張ってみようか」と、前向きな気持ちになれたのではないかと思います。

まとまった資金が用意できないからと二の足を踏む必要はありません。元本は、一括投資と積立投資の2通りで用意できると考え、1日でもはやく資産形成をスタートしてしまうことをオススメします。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

